

日本保育者養成教育学会

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

第4回研究大会 プログラム

大会テーマ「持続的な保育者養成としての教育と研修」

日時：令和2年3月1日（日）

会場：福山市立大学 港町キャンパス

目 次

日本保育者養成教育学会 第4回大会の開催にあたって……………	1
--------------------------------	---

大会参加者の方へ

会場までのアクセス……………	2
会場案内図……………	3
大会スケジュール……………	5
予約当日申込、クローク、予約弁当、情報交換会などについて……………	6
研究発表のご案内……………	7
総会……………	9

各セッションの紹介

学会企画シンポジウム……………	10
実行委員会企画分科会……………	14
口頭発表……………	17
ポスター発表……………	21

日本保育者養成教育学会第4回研究大会の開催にあたって

大会テーマ：「持続的な保育者養成としての教育と研修」

日本保育者養成教育学会第4回研究大会
実行委員長 大庭三枝(福山市立大学)

56年ぶりの東京大会となるオリンピックイヤーに開催される日本保育者養成教育学会第4回研究大会は、2020年3月1日(日)に広島県福山市の福山市立大学で開催する運びとなりました。

近年、子どもや保育現場を取り巻く社会状況は激動の渦中にあり、改めて保育および保育者養成の役割が問われています。

その中でも、小さき命の傍らで専門職として働く保育者をめざす学生に対し生きて働く養成教育と、現職となっても継続的な力量形成のために行われる研修について議論を深めることを目指し、大会テーマを「持続的な保育者養成としての教育と研修」と設定しました。

シンポジウムでは、保育者が後に実行力を発揮できる研修のあり方について、研修の実践研究および保育現場の立場から話題提供をしていただき、多様な視点から研修の実質的な活用について活発な議論が展開されることを期待しております。

口頭発表・ポスター発表等の各プログラムでは、全国からお越しいただいた発表者と参加者の間で闊達な討議が行われ、そこで得られた知見や相互作用が今後の養成教育・研究に資することを願い、実行委員会一同全力で運営の任にあたっていく所存です。

福山における保育者養成の歴史は半世紀を超え、福山女子短期大学(私立)の創立(1963年)とともに保育科が設置されて以来、1974年福山市立女子短期大学(福山市に設置者が変更)に引き継がれた後、四年制大学として2011年に開学した福山市立大学が受け継いでいます。広島県を中心にして西日本一円に保育者を輩出し、数多くの卒業生が保育現場でその役割を担ってきました。こうした伝統を持つ福山の地で、日本保育者養成教育学会第4回研究大会が開催される意味を、卒業生や保育関係者とともにかみしめています。

全国から福山に集っていただくこの機会に、前日には福山の保育現場にも足を運んでいただくプレ企画を計画しました。そして、保育者養成機関としての特色ある教育・地域性を活かした教育内容について、ここで育った卒業生・伸びゆく在学生が企画分科会を運営します。

瀬戸内海の中央に位置する福山は山海の幸に恵まれ、かつて「潮待ちの港」として栄え日本遺産に指定された「鞆の浦」は、映画「崖の上のポニョ」の舞台としても有名です。夕方の情報交換会では、市民の協力を得て、地元の食材を使った特産の料理と江戸時代から伝わる福山の伝統芸能「二上りおどり」を堪能していただけることと存じます。

新幹線ホームからすぐ近くに築城400年を迎える城の見える街福山で、皆様のご参会を心より歓迎し、有意義かつ未来につながる議論が繰り広げられることを期待して、歓迎の言葉といたします。

大会参加者の方へ

JR 福山駅から福山市立大学までの交通アクセスについて

<広域図>



<大学周辺図>



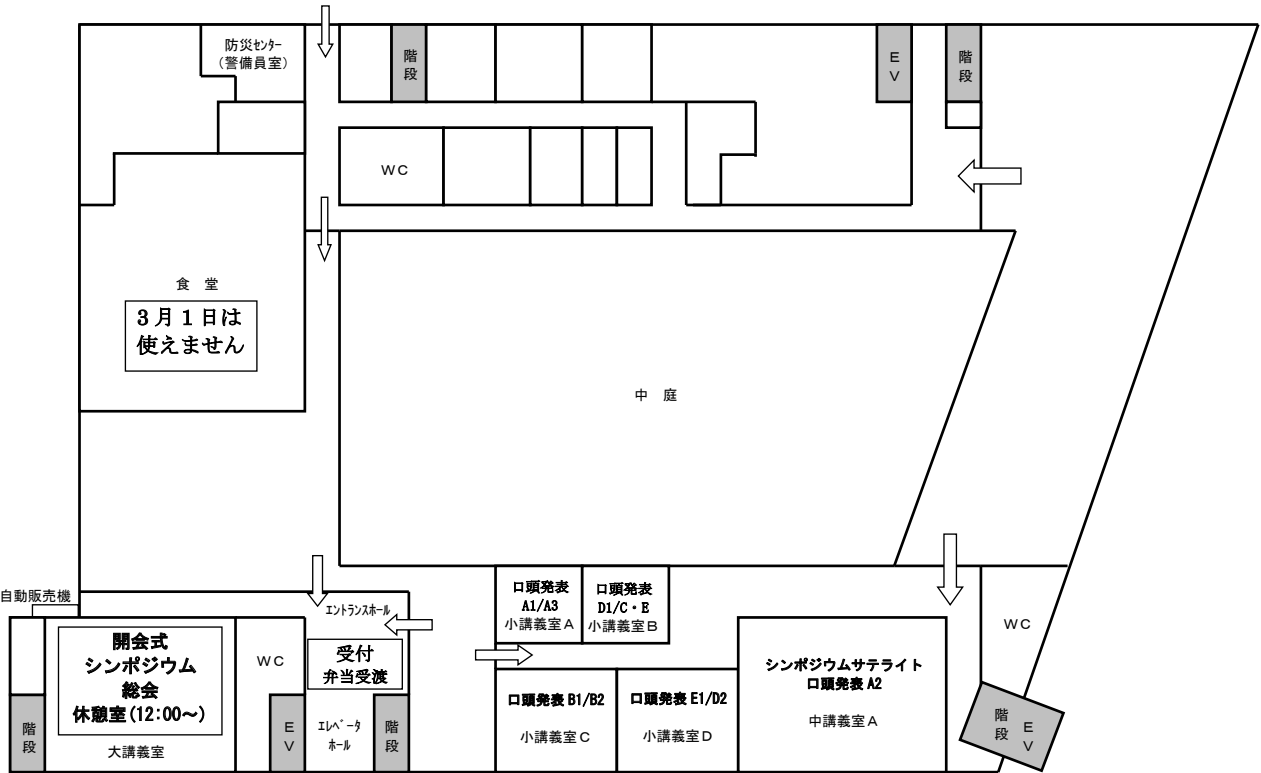
○バス（JR 福山駅南口）

- *②番乗り場：手城経由鋼管病院行 福山市立大学下車（8:20, 30, 40 のみ）
（約9分運賃180円）、
福山駅発 8:20（臨時）8:30, 8:40（臨時）、
10:00, 11:30（いずれも手城入口下車、徒歩4分）
- *⑨番乗り場：新浜循環線 四つ樋下車（約9分運賃170円）、徒歩4分
日曜ダイヤ 福山駅発 8:45, 10:20, 12:00
- ⑨大会終了後の福山駅行バス便については、福山市立大学発 17:35, 18:21

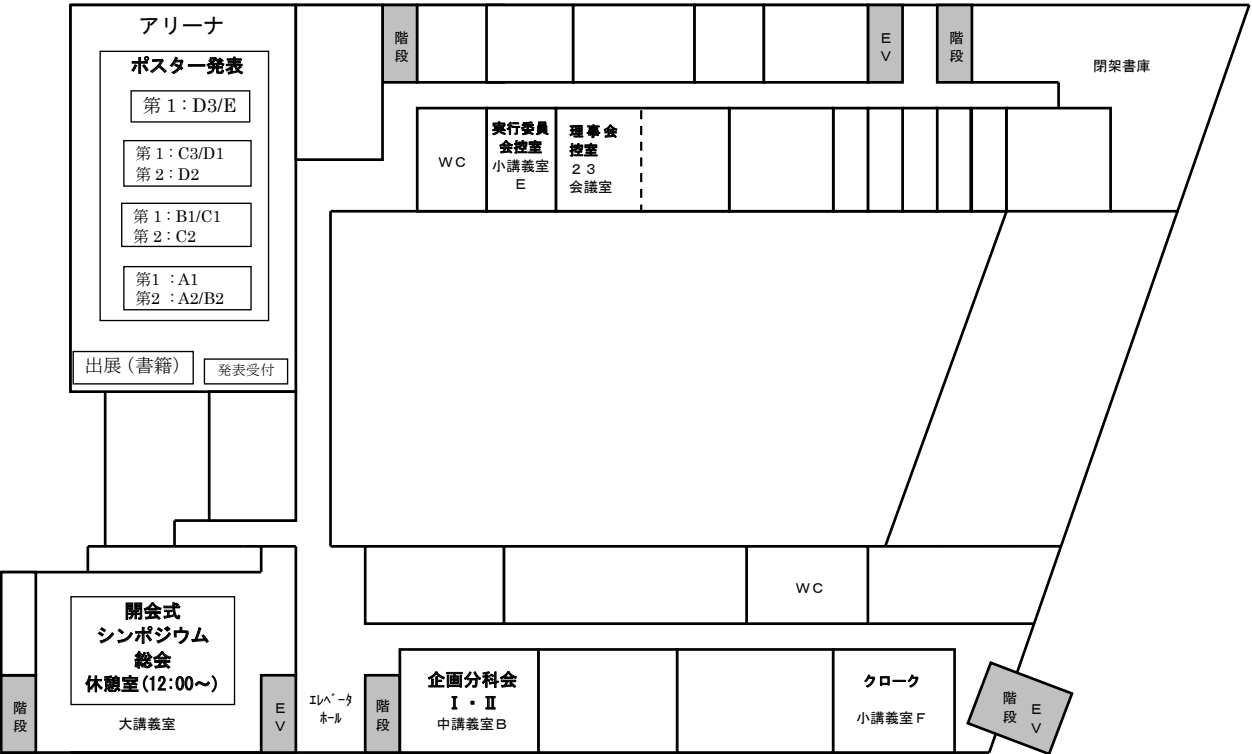
○タクシー：約10分（1000円程度）

注：大学北側駐車場は使用できませんので、ご注意ください。

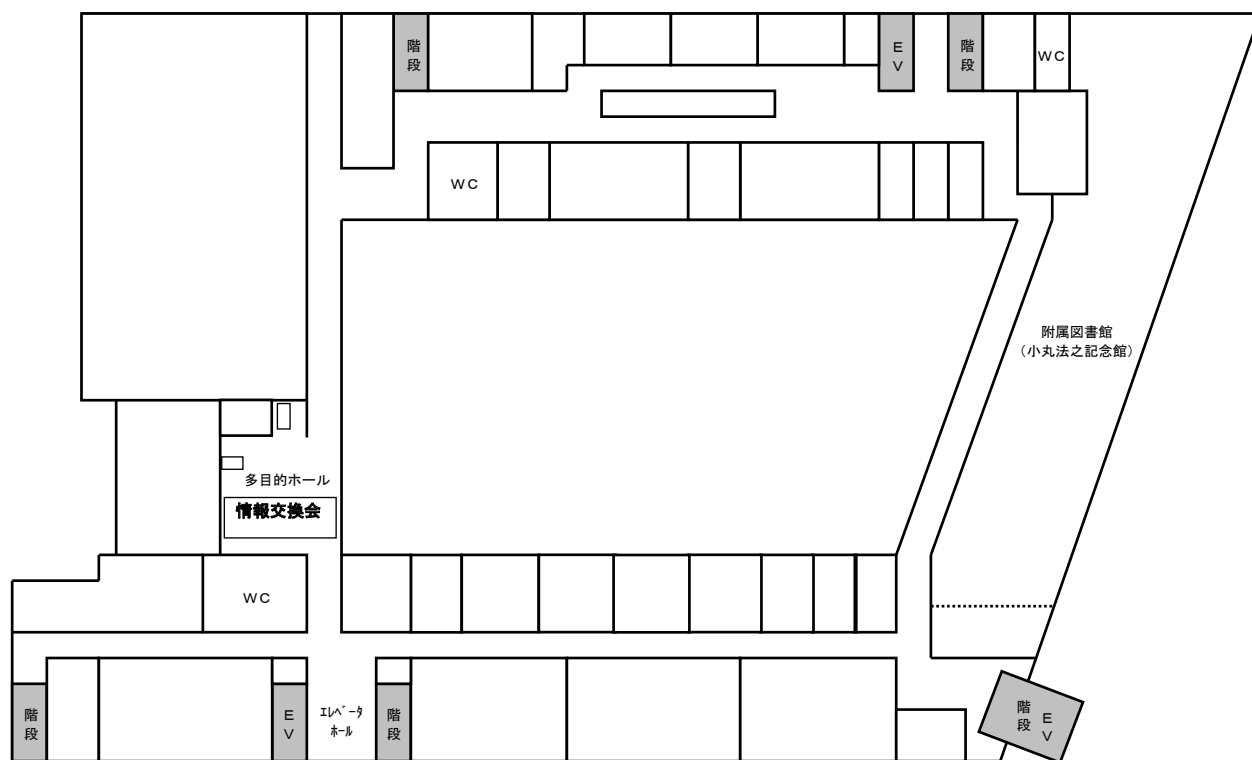
会場図（福山市立大学港町キャンパス）1 階（矢印は入り口）



2 階



3 階



【タイムスケジュール】

時刻	1F EVホール	2F 小講義 F	2F 大講義	2F 中講義 A	1F 小講義 A	1F 小講義 C	1F 小講義 B	1F 小講義 D	2F　アリーナ				2F 中講義 B	2F 小講義 E	2F 23会議 室	3F 多目的 ホール				
8:30	受付（8：30～17：30）	クローク（8：30～17：30）	9:15～9:30 開 会 式												書籍（8：30～17：00）	企画分科会Ⅰ	実行委員会控室	シンポジスト・理事控室	情報交換会 （二上りおどり）	
9:30			9:30～11:30 シン ポ ジ ウ ム																	シン ポ ジ ウ ム サ テ ラ イ ト 会 場
10:30																				
11:30			11:30～12:00 総 会																	
12:00			第1セッション（13:00～15:00）																	
13:00			口頭発表A・2 (OA15～OA19)	口頭発表A・1 (OA11～OA14)	口頭発表B・1 (OB11～OB15)	口頭発表D・1 (OD11～OD14)	口頭発表E・1 (OE11～OE14)	ポスター発表A・1 (PA101～PA120)	ポスター発表B・1／C・1 (PB101～PB113), (PC101～PC107)	ポスター発表C・3／D・1 (PC108～PC116), (PD101～PD111)	ポスター発表D・3／E (PD112, PE101～PE112)									
14:00			第2セッション（15:15～17:15）											企画分科会Ⅱ						
15:00	休憩室	口頭発表A・3 (OA21～OA24)	口頭発表B・2 (OB21～OB25)	口頭発表C・E (OC21～OC23、OE21～OE22)	口頭発表D・2 (OD21～OD25)	ポスター発表A・2／B・2 (PA201～PA213), (PB201～PB207)	ポスター発表C・2 (PC201～PC220)	ポスター発表D・2 (PD201～PD220)												
16:00	休憩室																			
17:00																				
17:30																				
19:30																				

○情報交換会は17:30~19:30、3階多目的ホールで行います。

○研究発表につきましては、発表の成立条件および注意事項をよくご参照ください。

○第1セッションと第2セッションの間が短く、大変恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

大会に参加される皆様へ

1. 予約申込者

予約申込の方は、受付にて大会参加証（兼 領収書）と要旨集をお受け取り頂いた後、大会参加証に必要事項をご記入下さい。大会参加証は、本大会参加者と認識できるように必ず身につけてご参加下さい。

2. 当日参加申込者

当日参加申込の方は、受付にて参加申込用紙に必要事項をご記入のうえ、当日参加費を添えてお申し込み下さい。

〈受付時間〉 8:30～17:30

〈当日参加費〉 6,000 円（会員）、6,500 円（非会員）

3. クローク

2 階小講義室 F にて、お荷物をお預かりします。お預けいただくお荷物には、貴重品を含めないようお願い致します。利用時間は、8:30～17:30 です。情報交換会にご参加なさる方は、情報交換会開始前にお荷物をお受け取り下さい。

4. 予約弁当の引換

11:30～12:30 の間、1 階受付横にて引換を行います。

食べ終わった弁当箱は回収いたします。お手数ですが、引換場所までお持ちください。

5. 情報交換会

17:30～19:30 の間、3 階多目的ホールにて行います。市民の協力も得て、地元の食材を使った特産の料理と江戸時代から伝わる福山の伝統芸能「二上りおどり」を堪能していただこうと準備しています。当日申し込みも受付にて承ります。

6. シンポジウム等の録音・録画・撮影

シンポジウム等の録音・録画・撮影につきましては、著作権および肖像権の保護のため、ご遠慮下さい。

7. その他

- ・ゴミは各自でお持ち帰り下さいますよう、お願いいたします。
- ・館内は全館禁煙となっております。ご理解とご協力をお願いいたします。
- ・会場内でコピー機、フリーWi-Fi をご利用いただくことはできませんので、予めご了承ください。

研究発表のご案内

【研究発表の成立条件】

- ① 口頭発表は、「口頭での発表」「討論への参加」「要旨集への要旨の掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は分科会終了前に退席することはできません。
- ② ポスター発表は、「ポスターでの発表」「質疑応答への参加」「要旨集への要旨の掲載」の3条件を満たすことで正式発表と認められます。また、発表者は「発表説明責任時間」の間、自分のポスター掲示場所に在席していなければならない、なおかつポスターは所定の時間掲示されなければなりません。
- ③ 発表者は、分科会開始前に分科会会場での受付を済ませ、その会場にて待機しなければならない。
- ④ 研究発表の際、原則として連名発表者全員が分科会に出席しなければならない。
- ⑤ 筆頭発表者がやむをえない理由で発表ができなくなり連名発表者がいる場合、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者となることができます（筆頭発表者の交代）。事前の届け出と手続きが完了しなければ、取り下げおよび交代は無効です。

* 以上に反することが確認された発表は、『発表取り消し』となる場合があります。

口頭発表

1. 発表時間は、1件につき発表時間12分、質疑応答3分の15分となります。なお、すべての発表終了後、30分の討論時間があります。
2. 発表機器の持ち込みは原則としてできませんので、会場備え付けのPCをご利用下さい。会場係立会いのもとで持参したUSBメモリから会場備え付けのPCへ発表用データを移し替えの上、必ずご自身で機器類の動作確認を行ってください。
なお、使用するメディアやファイルは事前にウイルスチェックを済ませて下さい。
3. 映像や再生等に関するトラブルに関しては、当方では責任を負いかねますことをご承知の上、ご自身の責任下でスライドをご作成下さい。
4. 会場のPCのOSはWindows10、アプリケーションはPowerPoint2016です。
5. 座長等の指示のもと、発表順に従い、口頭発表を行います。
6. 配布資料がある場合は、必要部数（おおよそ50部程度）を各自で事前にご用意下さい。また、配布も各自でお願いします。会場内でコピーはできませんので、あら

かじめご了承ください。

7. 筆頭発表者が欠席した場合および分科会終了前に在籍が確認できなかった場合は、原則的に「発表取り消し」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者として変更することができます。筆頭発表者の欠席や変更・連名発表者の欠席等につきましては、会期前は大会運営事務局に、会期中は当該発表の30分前までに受付にお申し出下さい。

ポスター発表

1. ポスター発表は、2階アリーナにて、2セッション制で行います。
2. パネルの大きさは、縦180cm、横90cmです。
3. ポスターの最上部には発表題目、発表者の氏名、所属を大きく記載して下さい。
本文の文字の大きさは特に指定ありませんが、ポスターから離れた位置（約2m）からでも読める大きさにして下さい。
4. 筆頭発表者は、セッション開始15分前までに、アリーナ入り口のポスター発表受付にお越し下さい。
5. セッション開始5分前までに、発表会場の指定された番号のパネルにポスターを貼って下さい。
なお、第1セッションと第2セッションの間の休憩時間（15分）に、ポスターの貼り替えを行います。そのため、第1セッションの発表者は、15:00～15:05の間にポスターを外し、第2セッションの発表者は、15:10までにポスターを掲示して下さい。短い時間で大変恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。
6. 割り当てられたセッション中（2時間）ポスターを掲示し、かつ、「在席責任時間（60分）」（いずれのセッションも、発表IDが奇数番号の方が前半1時間、偶数番号の方が後半1時間）の間、発表者はポスター掲示場所に在席し、質疑に応じることが求められます。それぞれの在席責任時間中に、座長が発表者全員の在・不在を確認します。
7. 筆頭発表者が欠席した場合および「在席責任時間」中に在籍が確認できなかった場合は、原則的に「発表取り消し」となります。ただし、連名発表者がいる場合は、事前に大会実行委員会の承認を得ることで、連名発表者（他の発表で筆頭発表者となっていない者）が筆頭発表者として変更することができます。筆頭発表者の欠席や変更・連名発表者の欠席等につきましては、会期前は大会運営事務局に、会期中は当該発表の30分前までに受付にお申し出下さい。
8. 配布資料がある場合は、必要部数を各自で事前にご用意下さい。また、配布も各自でお願いします。会場内でコピーはできませんので、あらかじめご了承ください。
9. 掲示したポスターは、セッション終了後5分以内に外して下さい。次の発表予定者の準備時間を確保するために、終了10分を経過しても掲示したままのポスターは取り外し、処分しますのでご了承ください。

日本保育者養成教育学会 2019 年度総会 プログラム

1. 2019 年度事業報告

- ①理事会の開催（3 回）
- ②『保育者養成教育研究第 3 号』編集委員会の開催（3 回）
- ③ニュースレターの発行
- ④第 4 回研究大会の開催 2019 年 3 月 1 日（日）

福山市立大学 港町キャンパス

2. 2019 年度決算報告

3. 2020 年度事業計画

- ①理事会の開催
- ②『保育者養成教育研究第 4 号』編集委員会の開催
- ③ニュースレターの発行
- ④第 5 回研究大会の開催 2021 年 2 月 26 日（金）～27 日（土）

桜美林大学（新宿キャンパス）

- ⑤その他

4. 2020 年度予算案

各セッションの紹介

シンポジウム 持続的な保育者養成としての研修を検討する

企 画：大庭三枝（福山市立大学）

コーディネーター：目良秋子（白百合女子大学）

シンポジスト：岡 健（大妻女子大学）

鈴木正敏（兵庫教育大学）

甲斐弘美（社会福祉法人つくし会理事長、全国認定こども園協会理事）

<企画趣旨>

平成 29 年告示の保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領によって、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園は日本の大切な幼児教育施設として位置づけられた。環境を通じた教育や乳幼児期の発達と学びの連続性を考慮した質の高い保育を展開するためには、保育者としての専門性の向上を目指した研修が重要となってくる。組織として研修をどのように活用したらよいか、研修が組織内で生きたものとして働き、子どもと保育者が生活する保育現場の環境改善につながることを求められている。

研修は様々なレベル（園（所）内、市、県、全国、任意等）で実施されてきたが、それは現場の保育の改善や保育者の力量向上、組織としての保育力の向上、保育に関係する諸機関や小学校との関係改善など、子どもを取り巻くあらゆる環境（人的・物的・社会的）に対してどのように機能しているのか、また機能させるためにはどのようなことができるのか。

このシンポジウムでは、保育者養成教育に携わるとともに現場研修の講師としてご経験豊富な岡 健氏と鈴木正敏氏から研修の現実的な課題と改善に向けての方策について、甲斐弘美氏は現場からの視点で研修の実際について、お話いただく。研修を基軸に、保育者養成研究と実践の両面から検討し、保育者が育ちゆく（持続的な保育者養成としての）研修について、フロアの方々とともに考えていきたい。今回検討する研修からの知見が、保育現場の環境改善だけでなく、保育者養成教育の向上に活かされることを期待するものである。

「(園内) 研修」へのインセンティブがこれまでになく働いている。今、どのような点でそこに問題意識を持つ必要があるのだろう。シンポジウムではこれまでの経験から思うところを話題提供したい。

＜研修すべき「専門性」をどう措定するか＞

保育の「質」を一義的に定義することは困難だと言われる。しかしだからといって、「何を」「なぜ」向上しようとしているのかを曖昧なままにして取り組むことは、やはり非効率的であり、非生産的だと考えている。私としてはまずは基本として、研修当該園の必然性や資源、当該保育者のモチベーションを丁寧に顕在化させ、自覚化と共有化を図りながら取り組むことから始めている、そして同時に、その当該主体者の必然性や課題性が、どのような「専門性」に結びつくことなのかを俯瞰して明らかにすることが大切なことだと研修に携わっていて感じている。

話し合いを繰り返し、「多様な考えがある」「豊かな気づきがあった」といった、実感を持つことへの帰結それ自体は、営みとしては意味があるだろう。一方で、当該園の必然性やモチベーションに研究者(部外者)が関わることの意味や役割とは何なのか、そしてその責任をどう考えるのか。養成校で「何を」「なぜ」教えるのか、という問題にも直結していると考えられ、いつも自問している点である。

＜「研修」における「しかけ」をどう考えるか＞

「研修」への「熱意」は重要である。しかし、「熱意」だけで「研修」がうまくいくほど、その営みは容易なものではない。だからこそ、様々なアクティビティやフレームへの知識、あるいはファシリテーションスキルといった技能が求められることになる。私は、こうした「(園内) 研修」における具体的な「援助」プロセス上の「専門性」向上を推進する様々な技能等を含むツールを「しかけ」とよび、それをより広範に機能させる取り組み(園の組織構造等のみならず、行政や団体等の研修体系の構築を含めたサポート体制等)を「しくみ」とよんでその2つを分けて捉えることにしている。

ところで、「(園内) 研修」への熱意は、しばしば「しかけ」利用という形で結びつき易い。例えば今、様々なところで「写真」を用いた研修の手法が紹介されるようになってきた。むろん、「研修」において「しかけ」の利用は重要である。なぜならば「専門性」とは、それが誰でもが簡単に持ちえないから専門的なのであり、畢竟、その獲得や習熟においては、絶えず「傷つきやすさ」という危うさを孕むことを覚悟しなければならないと考えるからである。ただ一方では、否、むしろだからこそ、例えば「写真」に思いつくままにキャプションを振り、それを並べたからといって「専門性」向上に簡単に結び付くことなどある筈がない。それぞれの「しかけ」には有効性と限界性がある。オールマイティの「しかけ」など存在しない。とすれば、そうした「しかけ」を開発・導入・使用する「研修推進者」の「専門性」とは何か(研究者の役割や「専門性」とは何か)。この点も大きな課題として存在している。

本格的に現場での研修指導を始めて10年余りになる。教育要領・指針が改訂になり、これまで以上に保育者の資質が問われている現在、その一つの鍵となるのが、現場における研修である。養成段階では基本的な知識・技能を身につけるが、その後の保育者としての育ちには研修が大きな力となる。しかし、研修の形も多様で、大勢の聴衆が一人の専門家の話を聞くものから、少人数のワークショップ、園所内研修などがある。内容も効果的な教材や方法の習得から、事例に基づいた子ども理解など、幅がある。こうした活動を通して保育の質を上げることが第一の目的であるが、悩みは尽きない。

<新たな価値を創造する場としての園所内研修>

園内研修でまず先生方に聞くのは、子どもの姿で望ましいと思っているのはどんなところか？ということである。写真を持ち寄ってもらったり、付箋に姿を書いてもらったりして、先生方が何をよしとしているかを探ることから始める。保育が子どもの理解から始まるように、学び手のありようを理解しなければ研修は始まらないからである。そのうちに今まで意思疎通が少なかった園所内の先生方がお互いの思いや願いに気づくようになり、保育に方向性が生まれて質が高まるという事例は豊富にある。園所の歴史や理念、なぜこの保育をしているのかについて、改めて意識が生まれてくる。

<園所の垣根を超えた研修・評価>

他にも、園所の垣根を超えた研修を企画している。例えば、キャリアアップ研修の場でも、講義だけでなく演習を取り入れている。テーマを決めて自園所から写真を持ち寄ってもらい、お互いにシェアしながら、そこで学んだことをまとめていく。15時間を年5回に分けてすることで、学んだことをもとに実践してもらい、往還型の研修にすることができる。市全体での第三者評価に取り組み、評価といいながら園所内研修の形にしていたりもする。公私幼保こども園が持ち回りで小さな公開保育を行い、それをみんなでドキュメンテーションにして帰る、というプチ研修会をしているところもある。お互いの実践や考え方を交流することで視野を広げ、保育文化の壁を超えていくのである。

<どのような（に）保育者を育てたいのか>

自分が子ども一人一人をみる時に、心がけているのは、幼な子であったとしても、これまでの歴史があり、そして将来がある、と考えることである。同じく保育者をみても、幼少期の育ちがあり、思春期と養成段階を経て、現場での経験があって今に至ること、そしてこれからの未来があることを思い描いていくことである。それを踏まえた上で、子どもたちの日々の生活がつながりをもち、お互いに刺激し合い、それが学びへとつながっていくように、保育者にも学びのつながりを感じ、自らの育ちがあることを信じて欲しいと思っている。何よりも、「園（所）って楽しい」「保育するって楽しい」と思っていて欲しいのである。

女性の社会進出、幼児教育・保育の無償化などにより、保育のニーズは増大の一途をたどり、保育現場では、職員の確保のための処遇改善と職員のキャリアアップが喫緊の課題となっている。同時に、幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂・改定により、「保育の質」の向上が求められている。そこで、社会福祉法人つくし会は、従来の園内外の研修に加えて、保育に携わるすべてのスタッフが専門職としての自覚と問題意識をもち、相互に学び合うことにより、学び合いの成果を現場に反映させていくしくみを構築できるよう、PDCAをめざした参加型園内研修を導入した。

<参加型園内研修の意義>

本法人の園内研修は、秋田（2011）らが提唱する参加型園内研修にならい、同一法人の職員が帰属意識をもちチームとして保育・教育理念の実現をめざすこと、多職種がそれぞれの専門性を発揮し多様な視点から学び合うこと、現場実践から問題や課題を拾い出して研修のテーマ設定を行うこととし、囑託アドバイザーと研修担当スタッフがファシリテーターとして園内研修の促進役を務めた。

<PDCAをめざした園内研修>

本研修では、さらに、研修により問題解決の方法を検討し、それを実践し、その結果を検証するというPDCAサイクルをめざした。ここで、Plan（計画）は園の教育・保育目標を、Do（実行）は日々の教育・保育の活動を、Check（評価）は問題の洗い出しと研修の立案・研修の実施を、Action（改善）は現場へのフィードバックと問題解決の試行に対応している。その結果に対して、職員の自己評価や園評価が実施され、次の教育・保育計画に反映される。職員は保育部会（A班・B班別に月に1回）、給食室スタッフは給食部会（月に2回）に参加した。

<園内研修の実施内容と成果>

保育部会では、KJ法により園内の課題を洗い出し、行事の見直し、安全、気になる子、働き方改革について問題解決や改善策について全体やグループで話し合い、その結果の現場へのフィードバックを行った。研修に参加した職員の振り返りでは、研修時間の制約があったが問題意識を共有することができた、それを現場にいかす努力が必要であるという意見があった。給食部会では、2園（一方はベテラン栄養士、一方は新入栄養士が勤務）の給食（同献立）の試食を繰り返し行うことにより、調理法や味付けについて検討を行った。調理担当者の振り返りでは、OJT・他園との比較・客観的評価の有効性が、一般職員のアンケートでは味付けや調理法の変化への気づきと食育への関心の高まりがみられた。客観的指標としての調味料の使用量にも変化があった（醤油の減少）。管理職からは、園内研修による職場の活性化と職員の問題意識と緊張感の高まりがみられるとの感想があった。園内研修を定期的実施することにより、個々の職員のキャリアアップと職場のチームワークやコミュニケーションが促進され、保育の質の向上が期待される。

実行委員会企画分科会

「中・四国地区における特色ある実践的保育者養成教育」

—中・四国保育学生研究大会（中・四国保育者養成協議会主催）の活用—

企画責任者：日本保育者養成教育学会第4回大会実行委員長 大庭三枝（福山市立大学）

運営：福山市立大学教育学部保育コース在学生有志、福山市立大学・福山市立女子短期大学卒業生有志

（企画趣旨）

現代社会における生活様式の変容に伴って、人と人が直接関わったり協力したり（時としてぶつかることも）する生活体験は減少の傾向にあるといえる。幼児教育において育みたい資質・能力の一つに挙げられる「思考力・判断力・表現力の基礎」とは、「遊びや生活の中で、気づいたこと、できるようになったことなどを使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか」と整理される。また、「学びに向かう力・人間性等」に関わっては、「心情・意欲・態度が育つ中で、いかにより良い生活を営むか」が目指され、葛藤・自分への向き合い・折り合い、相手の気持ちの受容、話し合い、目的の共有・協力などが、環境を通した教育の中で育まれようとしている¹。

こうした幼児教育に携わる保育者を目指す学生たちにとって、養成課程の中で育まれ将来にわたって働く力とはどのようなものであろうか？

福山市立大学では、保育士資格・幼稚園免許必修科目の一つとして「運動・身体表現活動Ⅰ・Ⅱ」および「保育内容（表現A）」が開講され、1年から2年にかけて運動・身体表現活動を中心に協同的な教材研究を積み重ねる学習が行われている。2年間の学びの集大成として、2年時の12月に開催される中・四国保育学生研究大会（中・四国保育士養成協議会主催）にて毎年研究発表を行ってきた。福山市立大学においては前身の福山市立女子短期大学の時代から、保育者養成教育においてこの大会を活用している。

子どもたちが成長する過程で様々な関係性や感情を体験しながら状況に対応していく力を身につけていくように、保育者をを目指す学生たちも仲間との人間関係の中で話し合いながら多様な意見をまとめあげ、保育内容を構想し教材を構成していく過程を経験してきた。

全国から保育者養成に携わる方々が福山に集うこの機会に、福山市立大学（短大時代も含めて）の中・四国保育学生研究大会研究発表について、実際に発表してきた卒業生および在学生が、映像も交えながら改めて振り返る。心に残る体験をしてきたからこそ語れる、協同的な教材研究の過程で培われたもの、自身の気づき・学び等を紹介する。この体験が現在の自分にどのように影響を及ぼしているのかを考察する機会となり、保育者養成のプロセスをたどるうえでも興味深い試みと考えている。

そして、短大時代からの研究発表を第三者として観てきた他保育者養成校教員はどのようにとらえているのか、指定討論における客観的な検討も踏まえながら、保育者の資質・力量形成など保育者養成が直面する状況についても、フロアの方々とともに考えたい。

保育者をを目指す学生たちの姿を全国の方々に見てもらい、これからの保育者養成を考える契機となることを願っている。

¹文部科学省 「幼児教育において育みたい資質・能力の整理」 幼児教育の実践の質向上に関する検討会第7回＜参考資料5＞p.43（令和元年11月26日） https://www.mext.go.jp/content/1422191_07.pdf

<企画分科会 I> 13:00~15:00 会場：中講義室 B（研究棟 2 階）

「広島県で学ぶということー未来へつなぐ責任ー」

福山市は広島県東部に位置し、1945 年 8 月 6 日に広島に投下された原子爆弾やその 2 日後 8 月 8 日の福山空襲について、その体験を見聞することは決して特別なことではなかった。しかし、被爆者・体験者の方々は高齢となり、かつてのように身近なところで直接戦争や平和に触れる機会が減ってきているといえる。

福山市立女子短期大学の時代、「自分たちの体験を次の世代に伝えなくては！」と情熱をもって語られる市民の方々からお話を聞くことができた。被爆者・空襲被害者から直接聞き取り、当時の学生たち（大庭ゼミ）は 2006 年には紙芝居「被爆アオギリ物語 そばにいるよ〜いっしょにあるいていこう〜」、2008 年には福山空襲を題材とした紙芝居と歌「母と子の八月八日」を制作した。

福山市教育・保育カリキュラム（2018）には、5 歳児 8 月の指導計画の内容（教育）に「平和の大切さや命の尊さについて考える」と明記されている（それまで活用されてきた福山市保育カリキュラム（2008）には、3 歳児と 4 歳児の 8 月の保育計画および 5 歳児の 7 月と 8 月の保育計画に、「平和の大切さを感じられるように、身近な日常生活の中から話をする」、「平和に関する絵本や物語を読んだり、折鶴などの作品をみんなで作って（後略）」、「地域のお年寄りから実際の体験を聞く機会を持つ」など、平和に関わる保育内容が具体的に記載されていた）。

福山市立大学における保育実習（保育所）はすべて福山市内の公立保育所にて、7~8 月に行われるため、実習中に実習生は子どもたちの平和学習場面に遭遇する。戦争を知らない世代の実習生だからこそ、大学の授業の中で、短大の先輩たちが作成した教材から命や平和の尊さを理解し子どもたちとともに感じ学ぶ実践的な学習が行われている。

学生時代に聞き取りから紙芝居を制作し現在保育者として働いている 2 名と、二つの平和紙芝居からの学びを総合表現教材としてまとめ研究発表した卒業生が、福山での学びを振り返る。

（話題提供）①「ヒロシマの被爆者から聞き取り作成した被爆アオギリ紙芝居」（2006 年度発表）

②「福山空襲を題材とした「母と子の八月八日」紙芝居と歌」（2008 年度発表）

③「福山で作られた平和教材を受け継ぎ、伝える」（2015 年度発表）

（指定討論） 三好年江（新見公立大学）

「協同的な教材研究が教えてくれたことー多様性の理解と連帯ー」

IT技術の発達、情報伝達やコミュニケーションの形態を変容させてしまった。現代の子どもたちは低年齢の頃からスマートフォンやタブレットといった機械にふれる機会が多くなる一方、少子化や生活様式の変化から様々な人と直接関わる体験が相対的に少なくなっているといえる。乳幼児期の発達や人間形成の基礎を培うためには、五感を駆使した様々な感覚体験や感情体験が大切であるが、子どもだけでなく家庭や地域、同僚などと、また環境や社会事象と多様な関係性を持つ立場にある保育者をめざす学生たちは豊かな関係性をどのように育んでいけるのだろうか。

人間社会には実に多様な意見が存在するが、異質なものを排除したり違いを遠ざたりするのではなく、むしろ違うところに発見があったり濃淡を理解したり見方が広がったりする可能性が、人間同士の付き合いの中にある。ゆえに、幼児期においては「ひと・もの・こと」とのかかわりが重要視されてきた。

中・四国大会における研究発表に向けての協同的な教材研究を通して、学生たちは様々な見方や考え方やその濃淡に触れ、幼児期の教材を考えていく視点を共有し、協同して物事にあたる際の段取り・配慮・連携など、実社会でも想定されるであろう状況の模擬体験をしている。

協同作業で行われる研究発表テーマは実に多様で、日本で親しまれている遊び歌を原曲まで遡り世界的な視野で教材を検討したもの（2012年発表）、子ども目線で保育所の一年をとらえ小学校への接続期を意識したもの（2013年発表）、戦後70年の節目に平和を再考したもの（2015年発表、分科会Ⅰで報告）などがある一方、福山市立動物園に日本で一頭だけいるボルネオゾウ「ふくちゃん」の闘病をテーマにしたもの（2018年発表）など地域素材から開発されたものもある。

いろいろな思いを経験しながらの教材研究のプロセスは現在にどのようにつながっているのか、福山市立大学教育学部保育コースを卒業し保育者として働いている3名と保育者をめざす現役の学生が振り返る。

（話題提供）①「世界的な視野での協同的な教材研究一個々の力の集合体ー」（2012年度発表）

②「子どもの目線で就学前教育から小学校への接続期を考える」（2013年度発表）

③「福山市立動物園の「ふくちゃん」を知っていますか？」（2018年度発表）

（指定討論） 金山和彦 （倉敷市立短期大学）

口頭発表 A-1.保育者の専門性など

13:00～14:30 小講義室A

座長: 岩田遵子・大橋喜美子

時刻	発表ID			
13:00	OA11	保育学建設に資する「中間的語彙」の創造 ー質的研究法からの示唆ー	大阪府立大学大学院・地域保健学域教育福祉学類	吉田直哉
13:15	OA12	ドキュメンテーションにみる保育者の専門性 (2) ー写真分析から捉えた保育者の関心の変化ー	東京家政大学	前田和代
13:30	OA13	全ての子ども一人一人の理解はいかにして保障されるか (1) ー保育者が幼児たちと関わる集団実践理論としての「遊び保育論」(小川)の意義ー	名古屋学院大学 東京都市大学 美和こども園 美和こども園 美和こども園	○吉田龍宏 岩田遵子 山田祥子 鈴木まり 倉知早穂
13:45	OA14	全ての子ども一人一人の理解はいかにして保障されるか (2) ー保育実践例の比較分析を通してー	東京都市大学 美和こども園 美和こども園 美和こども園 美和こども園	○岩田遵子 吉田龍宏 山田祥子 鈴木まり 倉知早穂
討論14:00～14:30				

口頭発表 A-2.保育者の専門性など

13:00～14:45 中講義室A

座長: 梶島香代・岡健

時刻	発表ID			
13:00	OA15	養成課程において「指導計画」の指導をどう捉えるか ー実習の事前指導における「指導案」指導を巡る困難性の観点からー	大妻女子大学	岡健
13:15	OA16	お互いの保育を見合う園内研修の試み (3) ー遊びの姿を“見取る”ことと“集まり”との関係ー	東洋大学	高橋健介
13:30	OA17	保育者養成としてのアクティブラーニング ー経験・省察・トランスフォーメーションー	文京学院大学 文京学院大学 東京家政大学	○木村浩則 梶島香代 花輪充
13:45	OA18	保育者養成校における食物アレルギー教育の現状②	愛知文教女子短期大学 愛知文教女子短期大学	○朴賢晶 西澤早紀子
14:00	OA19	観察力・伝達力を養うドラマの手法 ー人間オブジェー	関西保育福祉専門学校	日笠みどり
討論14:15～14:45				

口頭発表 B-1.保育内容と方法、授業研究など

13:00～14:45 小講義室C

座長: 請川滋大・劉郷英

時刻	発表ID			
13:00	OB11	乳児保育における発達と室内環境の変遷 ー1歳児保育室のおもちゃの一年間の変化の観察を通してー	足利短期大学 足利短期大学	○松山寛 采澤陽子
13:15	OB12	カリキュラムへの理解を深める科目間連携の取り組み ー教育課程総論・保育内容総論・保育所実習研究 A を通してー	中村学園大学短期大学部	櫻井裕介
13:30	OB13	保育者養成校で学ぶ学生が作成したサウンドマップの質的分析	北九州保育福祉専門学校・福岡県立大学大学院人間社会学研究科 福岡県立大学	○金子珠世 池田孝博
13:45	OB14	文化を題材とした保育内容環境の授業開発	北翔大学短期大学部	菊地達夫
14:00	OB15	学生主導による表現活動を中心とした授業構成の事例Ⅱ ー領域表現(音楽・身体・造形)と関連付けてー	仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学 仙台白百合女子大学	○仁藤喜久子 千凡晋 四家昌博
討論14:15～14:45				

口頭発表 D-1.授業研究など

13:00～14:30 小講義室B

座長: 高橋貴志・中川智之

時刻	発表ID			
13:00	OD11	ドキュメンテーションのコメント表現と保育者の資質向上 —学生との保育観形成に関する考察—	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○坂口 静子 岡 (宮園) 美佳
13:15	OD12	保育者養成短期大学に求められる文章表現力の育成に 関する一考察	足利短期大学	采澤陽子
13:30	OD13	専門性の向上を目的とした「保育・教職実践演習 (幼 稚園)」の取り組みと課題 —「実践実習」を軸とした保育の計画・展開・評価・ 改善の学びに向けた授業展開—	筑紫女学園大学	上原真幸
13:45	OD14	保育者養成教育校の科目「子どもの保健」の授業研究 —アレルギー対応想定訓練での学び—	田園調布学園大学 別府大学短期大学部	○木村美佳 谷川友美

討論14:00～14:30

口頭発表 E-1.地域子育て支援、保育をめぐる今日的課題など

13:00～14:30 小講義室D

座長: 石井章仁・高橋実

時刻	発表ID			
13:00	OE11	保育士の労働意識 ～全国福祉保育労働組合アンケートの分析～	学習院大学人文科学研究科教育学専攻 博士後期課程	中山佳寿子
13:15	OE12	保育所に通所する幼児の入浴習慣: 基礎的調査	東京都市大学人間科学部児童学科 東京都市大学人間科学部児童学科 東京都市大学人間科学部児童学科	○早坂信哉 園田巖 井戸ゆかり
13:30	OE13	保育現場における歌唱を中心とした音楽表現活動 —保育園・幼稚園への実施状況調査を通して—	小田原短期大学 福岡女子短期大学	○前田奈緒 大年真理子
13:45	OE14	幼稚園児の保護者に対する児童虐待についての意識調査	奈良学園大学 人間教育学部 奈良学園大学 人間教育学部 奈良学園大学 人間教育学部 奈良学園大学 人間教育学部	○岩本健一 高岡昌子 林悠子 高橋千香子

討論14:00～14:30

口頭発表 A-3.保育者の専門性など

15:15～16:45 小講義室A

座長: 神永直美・矢藤誠慈郎

時刻	発表ID			
15:15	OA21	1枚の写真からはじめる保育プロセス創造型研修の提案	共立女子大学	境愛一郎
15:30	OA22	保育におけるマネジメントとリーダーシップ —キャリアアップ研修テキストにおけるマネジメント 論の検討をもとに—	山梨学院短期大学 大阪府立大学大学院 大阪国際大学短期大学部	○田口賢太郎 吉田直哉 久保田健一郎
15:45	OA23	中堅保育者のための園内研修ファシリテーターの養成 —研修プログラムの一環として—	茨城大学 茨城キリスト教大学 常磐短期大学	○神永直美 中島美那子 木村由希
16:00	OA24	<養護>と<教育>をつなぐもの/隔てるもの —児童養護施設・保育所・認定こども園・幼稚園にお ける保育者の専門性に関する調査研究(1)—	山梨学院短期大学 山梨学院短期大学 山梨学院短期大学	○青柳宏幸 中込まゆみ 田口賢太郎

討論16:15～16:45

口頭発表 B-2.保育内容と方法、授業研究など

15:15～17:00 小講義室C

座長: 桜島香代・那須信樹

時刻	発表ID			
15:15	OB21	保育者養成課程における保育内容(表現)の授業実践に 関する一考察 —造形表現における学生の自主的な学びを目指して—	仙台白百合女子大学	千凡晋
15:30	OB22	幼稚園における食育プログラム実施による家庭での食 事摂取状況の変化	福岡女子大学 中村学園大学短期大学部	○梅木陽子 永渕美香子
15:45	OB23	幼稚園における食育プログラム実施による給食摂取状 況の変化	中村学園大学短期大学部 福岡女子大学	○永渕美香子 梅木陽子
16:00	OB24	保育現場でのピアノの活用 —保育内容(表現)の視点から—	仙台白百合女子大学	四家昌博
16:15	OB25	絵本の読み聞かせによる幼児の興味を示した行動に関 する研究Ⅲ —幼児個人の特性に着目して—	北陸学院大学	高村真希

討論16:30～17:00

口頭発表 C.保育実習・教育実習、実習指導など E.地域子育て支援、保育をめぐる今日的課題など

15:15～17:00 小講義室B

座長: 和田明人・小原敏郎

時刻	発表ID			
15:15	OC21	「保育養成校の学生におけるソーシャルスキル・保育者 効力感・コーピングの関連について ～実習年度と実習前・後の比較から～」	聖カタリナ大学短期大学部	戸井和彦
13:30	OC22	実習生を育てる先生方の言葉がけ —事前指導で学生に伝える要点—	植草学園大学	栗原ひとみ
15:45	OC23	専門性の向上を目的とした「保育・教職実践演習(幼 稚園)」の取り組みと課題 —映像を通じた学生の気づき—	筑紫女学園大学	原田博子
16:00	OE21	保育の質の向上における大学と併設園の役割	大阪国際大学短期大学部 大阪国際大学短期大学部	○久保田健一郎 野口知英代
16:15	OE22	子育て支援の場における親子ヨガの試み —領域「健康」の観点から—	茨城女子短期大学	国府田はるか

討論16:30～17:00

口頭発表 D-2.授業研究など

15:15～17:00 小講義室D

座長: 橋本勇人・目良秋子

時刻	発表ID			
15:15	OD21	保育科学生の資質に関する問題点とその対応 …「いのち」を保護して育てる視点の欠如について…	育英短期大学	佐藤達全
15:30	OD22	保育専攻学生のカリキュラム・マネジメントに対する 理解と意欲 —カリキュラム・マネジメントの講義後の評価—	富山大学 松蔭大学 武庫川女子大学短期大学部 日本女子体育大学 和洋女子大学 帝京科学大学 白百合女子大学 日本体育大学	○若山育代 後田紀子 小尾麻希子 桐川敦子 佐藤有香 新家智子 目良秋子 若尾良徳
15:45	OD23	試験保育士を対象とした保育実技研修を公開講座で実 践する試み	植草学園短期大学	長嶺章子
16:00	OD24	発達過程の理解の必要性について —旧 保育所保育指針を紐解いて—	四国大学	兼間和美
16:15	OD25	授業外の大学生活環境を学びに活かす —学内施設「子どもケアセンター」との協働—	名古屋学芸大学 名古屋学芸大学 名古屋学芸大学 名古屋学芸大学	○津金 美智子 鋤柄則子 想厨子伸子 藤井正子

討論16:30～17:00

ポスター発表 A1.保育者の専門性など

13:00～15:00 アリーナ

座長: 矢藤誠慈郎・木戸啓子

発表ID

PA101	保育者養成における安全教育 I ー幼稚園教育要領にみる安全ー	国立音楽大学	八幡真由美
PA102	病棟保育士の養成について ー療育活動のエビデンスレベルを明らかにしていくための基礎調査: 対比較法による分析ー	宮城誠真短期大学	小玉幸助
PA103	幼児教育における「連携・協働」する力を育む (1) ー授業における取り組みー	皇學館大学 皇學館大学 皇學館大学	○梶美保 中村真緒 吉田直樹
PA104	子育て支援活動における保育者養成校学生の変容 ーアサーションの活用に着目してー	島根大学 広島大学	○伊藤優 高橋均
PA105	小規模保育園 A における乳児保育の食に関する園内研修の事例的検討	昭和女子大学 武蔵野短期大学	○遠藤純子 小野友紀
PA106	保育者養成におけるキャリア発達を促すための教育プログラムの開発 (4)	東北生活文化大学短期大学部 聖和学園短期大学 群馬大学	○三浦主博 上村裕樹 音山若穂
PA107	巡回相談における保育者が求める支援についての検討 ー保育者歴の違いに着目してー	九州産業大学	阪木啓二
PA108	地域における世代間交流活動への参加が教師・保育者を目指す学生の認識に及ぼす影響 ー社会貢献の観点に着目してー	岡崎女子大学 岡崎女子大学 岡崎女子大学 岡崎女子大学 岡崎女子大学 和洋女子大学	○岸本美紀 権汝珠 小野隆 水野恭子 宮腰宏美 矢藤誠慈郎
PA109	リーダーシップ・トレーニングが保育者養成学生の学習へと及ぼす影響	聖和学園短期大学 群馬大学 東北生活文化大学短期大学部	○上村裕樹 音山若穂 三浦主博
PA110	他者評価式幼児用自尊感情尺度の保育実践への応用可能性 ー園内研修における取り組みからー	四国大学短期大学部	勝浦美和
PA111	卒業生のキャリア形成に関する初期調査 ー卒業生を対象とした質問紙調査からの検討ー	目白大学 目白大学 目白大学 目白大学	○高橋弥生 原孝成 おかもとみわこ 當銘美菜
PA112	2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 ーテキストマイニングを用いたディプロマ・ポリシーの分析ー	仁愛女子短期大学幼児教育学科 同 生活科学学科 同 幼児教育学科	○松川恵子 田中洋一 香月拓
PA113	2年制保育者養成校における3ポリシーの検討 ーテキストマイニングを用いたアドミッション・ポリシーの分析ー	仁愛女子短期大学幼児教育学科 同 生活科学学科 同 幼児教育学科	○香月拓 田中洋一 松川恵子
PA114	保育の原理はなぜ伝わらないのか ー遊びよりも勉強・習い事を重視する風潮にどう向き合うかー	仁愛女子短期大学	増田翼
PA115	保育者養成課程における保育知識力・実践力・基礎力 ー横断的調査からみた特徴ー	高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学 高崎健康福祉大学	○今井邦枝 山西加織 野田敦史 岡本拓子
PA116	特色ある保育者養成教育の試み ー地域との連携を通じた保育者養成教育の検討ー	淑徳大学 淑徳大学 淑徳大学	○桃枝智子 檜英子 江津和也
PA117	新任保育者の学び	倉敷市立短期大学	木戸啓子
PA118	教育・保育系学生の鉛筆と箸の持ち方に関する実態調査	福山市立大学	小林 小夜子
PA119	領域「表現」に関連する専門性の育成 ーカリキュラム構成の視点からの検討ー	桜美林大学	木村充子
PA120	保育職継続のために管理職に求められる支援 ー幼稚園長、認定こども園長へのインタビュー調査からー	日本体育大学	若尾良徳

ポスター発表 B1. 保育内容と方法、授業研究など

13:00～15:00 アリーナ

座長: 今川恭子・和田上貴昭

発表ID

PB101	「表現」に関わる保育者の専門性とその育成のあり方 養成校の授業研究を通して	聖心女子大学 竹早教員保育士養成所 田園調布学園大学 東京藝術大学	○今川恭子 赤津裕子 斉木美紀子 伊原小百合
PB102	具体美術協会と童美展について	倉敷市立短期大学	金山和彦
PB103	学内子育て支援の保育参加を経た子育て交流会の実施	京都光華女子大学	和田幸子
PB104	子どもの表現活動につながる実践的授業の検討 ～音楽表現の視点から～	東京女子体育短期大学	三好優美子
PB105	保育者養成校における幼児の運動遊びについての学び ～まりつきを通して～	名古屋柳城短期大学	菊池理恵
PB106	保育における『環境』への視座を養うためのアクティブ・ラーニングのあり方に関する研究（その2）	東北福祉大学 東北福祉大学	○日野さくら 高野亜紀子
PB107	自ら学び続ける保育者を養成する（2） ～絵本作画ワークショップにおける学生の学び合いの事例より～	中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学 中村学園大学	○那須 信樹 野中千都 浦恭子 吉川寿美 倉原弘子 松垣淳子 山田朋子 吉松遊佳
PB108	保育者養成における対話型アプローチを用いた取り組みについて（2） ～2年間の実習の振り返りに AI ミニ・インタビューを取り入れた実践～	聖霊女子短期大学 東北福祉大学	○織田栄子 利根川智子
PB109	～保育者養成における学修者の課題探求につながる教材の検討 ～グループワークの有効性～	東京女子体育短期大学 東京女子体育短期大学	○村石理恵子 土井晶子
PB110	領域「表現」の授業内容に関する検討 ～ソースブック等、過去の検討内容に学ぶ～	実践女子大学 東京家政学院大学 東京家政学院大学 中村学園大学 中村学園大学 お茶の水女子大学大学院生	○越山沙千子 新開よしみ 吉永早苗 倉原弘子 那須信樹 渡邊佐恵子
PB111	領域「表現」の専門的事項の授業において、教員の専門性はどのように生かされるのか	東京家政学院大学 東京家政学院大学 実践女子大学 お茶の水女子大学大学院生	○新開よしみ 吉永早苗 越山沙千子 渡邊佐恵子
PB112	NZのナショナルカリキュラム「テ・ファリキ」と保育についての一考察 ～乳幼児の園での生活と遊びの実践から～	四條畷学園短期大学	長谷秀揮
PB113	「規則性・法則性に気付く体験」にかかわる保育実践のための保育者養成教育の検討	神戸常盤大学	大森雅人

ポスター発表 C1. 保育実習・教育実習、実習指導など

13:00～15:00 アリーナ

座長: 今川恭子・和田上貴昭

発表ID

PC101	自己課題解決に向けた保育学生の意識変化 ～保育実習における自己評価を通して～	貞静学園短期大学 貞静学園短期大学	○相楽真樹子 齋藤恵子
PC102	保育者養成校と実習受け入れ機関における障害のある学生の学外実習支援に関する事例検討 ～共通理解に根差した学外実習支援を目指して～	愛知みずほ短期大学 愛知みずほ短期大学 愛知みずほ短期大学	○工藤英美 金仙玉 田中良三
PC103	実習に係るドキュメント改訂の試み ～策定と共通化／差別化の課題～	淑徳大学短期大学部 淑徳大学短期大学部	○清水将之 前正七生
PC104	実践力につながる保育実習指導の在り方 ～保育所実習への不安からの一考察～	同朋大学 同朋大学	○吉田とき枝 馬越恵子
PC105	保育者（実習指導者）の適応・成長からみた教育実習の検討 ～教育実習指導シートの作成を通して～	宮崎学園短期大学	小澤拓大
PC106	保育実習準備の充実に向けて 2	宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学 宮崎学園短期大学	○久松尚美 小川美由紀 小澤拓大
PC107	保育所実習の経験が就業意識に及ぼす影響 ～保育実習ⅠとⅡの事後の記述分析から～	東京未来大学 東京未来大学	○金瑛珠 及川留美

ポスター発表 C3. 保育実習・教育実習、実習指導など

13:00～15:00 アリーナ

座長: 小原 敏郎・伊藤一統

発表ID

PC108	実習記録の分析 ～4年制大学の保育実習に着目して～	東京成徳大学 帝京平成大学 白梅学園短期大学 東京成徳大学	○善本真弓 小山朝子 主藤久枝 坪井瞳
PC109	実習指導におけるパネルシアター実演の学習効果	彰栄保育福祉専門学校	野見山直子
PC110	保育系学生にとっての実習の意義 ～保育所・幼稚園の実習を踏まえて～	修文大学短期大学	鈴木順子
PC111	施設利用児者の理解を深めるエピソード記録指導に関する試み	こども教育宝仙大学 こども教育宝仙大学	○宇佐美かおる 松倉佳子
PC112	テキストマイニングによる保育実習の学びの分析	仁愛女子短期大学	中尾繁史
PC113	教育実習の学習支援システム（「観る・気づく・書く」）の開発と実践	太陽第二幼稚園	小林由香
PC114	実習を「共に」育ち合う関係へ —実習生の受け入れにおける聞き取り調査から考える実習という場について—	和洋女子大学	田島大輔
PC115	実習に係る実務支援へのICT活用 訪問指導記録の電子化・クラウド化による利便性の向上と指導への活用	宇部フロンティア大学短期大学部	伊藤一統
PC116	保育者養成課程における希望進路の変化とその背景に関する検討・2 —全実習終了時において幼稚園就職希望度が最も高かった学生に焦点をあてて—	千葉明德短期大学 千葉明德短期大学	○小久保圭一郎 池谷潤子

ポスター発表 D1. 授業研究など

13:00～15:00 アリーナ

座長: 小原 敏郎・伊藤一統

発表ID

PD101	保育者はどんな保健的問題に困り悩んでいるのか —問題の現状報告と倫理的問題解決に向けての模索—	別府大学短期大学部 田園調布大学	○谷川友美 木村美佳
PD102	保育施設の事故予防に関する主体的な学びを促す授業研究 —観察実習を活用した試み—	東海学院大学短期大学部	高岡光江
PD103	「総合表現演習Ⅱ」科目における実践報告～まとめ～	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○加藤達雄 笠川武史
PD104	保育者養成校が独自に設けたブレールームにおける学生の主体的な学び	共立女子大学	小原敏郎
PD105	保育表現指導における「卒業制作発表」の実践報告（2） ～授業アンケートより～	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○丸井理恵 加藤達雄
PD106	保育表現指導における「卒業制作発表」の実践報告（1）	常磐会学園大学 常磐会学園大学	○笠川武史 丸井理恵
PD107	身体表現活動における模擬保育のふりかえりの検討	白梅学園短期大学	佐藤文
PD108	宿泊研修における体験学習に関する取り組み その3	白百合女子大学 白百合女子大学	○土橋久美子 石沢順子
PD109	保育園児との遊び体験を通じた保育実践力の育成	星槎道都大学	吉江幸子
PD110	保育者養成校の1年次生が「乳幼児期の学び」に対して抱くイメージ（2）	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○中村涼 橋本信子
PD111	弾き歌い伴奏の習得過程における歌唱指導の意義 —表現技能の向上と学習態度の形成—	東京都市大学 東京都市大学 東京都市大学	○小寺洋子 上野彩子 江口久美子

ポスター発表 D3. 授業研究など
E. 地域子育て支援、保育をめぐる今日的課題など

13:00~15:00 アリーナ

座長: 亀崎美沙子・爾寛明

発表ID

PD112	保育者養成における協働性を育む取り組み ー野外活動の7つのミッションへの挑戦ー	田園調布学園大学	舟生直美
PE101	子育て支援における葛藤の質的特徴 ー葛藤事例の計量テキスト分析からー	十文字学園女子大学	亀崎美沙子
PE102	子育て支援員研修におけるグループワークの重要性	静岡産業大学 川崎医療福祉大学	田中卓也 小川知晶
PE103	保育者養成校における地域子育て支援活動による学生の自己評価	白百合女子大学 白百合女子大学 白百合女子大学 白百合女子大学	○目良秋子 石沢順子 川口潤子 土橋久美子
PE104	保育における職場環境に関する研究(その1) ー職場環境と早期離職との関係についてー	尚綱大学短期大学部 尚綱大学短期大学部	○横山博之 増淵千保美
PE105	保育における職場環境に関する研究(その2) ー早期離職を予防できる職場環境とはー	尚綱大学短期大学部 尚綱大学短期大学部	○増淵千保美 横山博之
PE106	日本版ネウボラにおける精神保健福祉士の必要性と可能性 ー子育て世代包括支援センターとの連携の可能性を中心としてー	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 就実短期大学 川崎医療福祉大学 社会福祉法人 森と木	○橋本勇人 笹川拓也 岡正寛子 松本優作 中川智之 大江由美 荻野真知子 土田耕司 橋本彩子 藤澤智子
PE107	幼児教育・保育学生の実践力に資する保育活動経験のデザイン	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 社会福祉法人 森と木	○荻野真知子 尾崎公彦 橋本勇人 笹川拓也 中川智之 入江慶太 岡正寛子 森本寛訓 松本優作 藤澤智子
PE108	保育者養成教育への ARC の枠組みの導入	中村学園大学	笠原正洋
PE109	西日本豪雨災害被災地における幼児教育機関の防災教育の取り組みと課題(1) ー先行研究の整理・検討を中心にー	川崎医療福祉大学 秋草学園短期大学 静岡産業大学	○小川知晶 志濃原亜美 田中卓也
PE110	韓国の無償保育支援政策の効果 ー養育費負担の軽減効果を中心にー	中部大学 高田短期大学	○蘇珍伊 林韓燮
PE111	韓国の保育・幼児教育の共通教育課程「改正ヌリ課程」の特性	高田短期大学 中部大学	○林韓燮 蘇珍伊
PE112	外国人の子どもの就学に関する一考察2	目白大学	岡本弘子

ポスター発表 A2.保育者の専門性など

15:15～17:15 アリーナ

座長: 内藤知美・小林小夜子

発表ID

PA201	保育者の遊びに対する認識の基礎的研究 —小児病棟勤務の保育者に焦点を当てて—	川崎医療福祉大学	入江慶太
PA202	幼児教育における「連携・協働」する力を育む（２） —子育て支援活動「びよびよ」における取り組み—	皇學館大学教育学部 皇學館大学教育学部 皇學館大学教育学部	○中村真緒 梶美保 吉田直樹
PA203	インクルーシブ保育に関する保育者の養成期から育成期への変化 とその課題	十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科 十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科	○鈴木 晴子 潮谷恵美
PA204	大学内ひろばを活用した学生の子育て支援力の育成 —ひろばスタッフへのヒアリング調査から—	神戸医療福祉大学 高田短期大学	○藤重育子 鷺見裕子
PA205	「保育の評価」に関わる視点の育成 —初年次の実践的授業からの学びに着目して—	田園調布学園大学 田園調布学園大学	○内藤知美 横尾暁子
PA206	保育者に求められる「人間性」をどのように捉えるか —保育者養成校と現場が保育者の専門性を共通理解するために—	仁愛女子短期大学	賞雅さや子
PA207	「子ども理解」における困難場面の検討 —新任保育者を対象に—	和洋女子大学	佐藤有香
PA208	持続的な保育者養成に求められる研修の在り方を考える ～保育環境リスクマネジメントの視点から～	大庭学園 沖縄福祉保育専門学校	小禄朝也
PA209	保育者としての学びが保育者の専門性の発達に与える影響 2	目白大学人間学部	原孝成
PA210	保育者の専門性と「対話」についての考察 ～対話的な場の試みについて 中間まとめ～	京都西山短期大学	西川友理
PA211	保幼小連絡協議会の取り組みに関する研究 —広島県福山市の事例から—	こどもえんつくし 福山市立大学	○甲斐 弘美 大庭三枝
PA212	新任保育者の職場における受容感とレジリエンスの関係	岡崎女子短期大学	渡部努
PA213	保育の質の向上のための効果的な養成校と保育施設の連携について	桜美林大学	爾寛明

ポスター発表 B2. 保育内容と方法、授業研究など

15:15～17:15 アリーナ

座長: 内藤知美・小林小夜子

発表ID

PB201	「保育内容の指導法」3 領域「健康」「環境」「表現」における 科目間連携を通じた授業の振り返りと課題	宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部 宇部フロンティア大学短期大学部 目白大学	○久光明美 弘中陽子 原井輝明 重村美帆 當銘美菜
PB202	保育者養成における「お店屋さんごっこ大会」開催の意義と課題	山口芸術短期大学	佐藤智朗
PB203	救命救急活動に関する意識調査 —子どもの命を守る保育者養成の試み①—	東大阪大学短期大学部 東大阪大学短期大学部 東大阪大学短期大学部	○池澤由香里 後藤由美 桑田恵美子
PB204	「現代教育課程への一考察（その３）」 —フレール「ブルクドルフのヴァイゼンハウゼにおける学園の公示」との比較を通して—	甲子園短期大学	馬場住子
PB205	保育内容の体系化の研究 —「話し言葉」の観点から—	東洋大学 十文字学園女子大学 東京家政大学	○高山静子 亀崎美沙子 前田和代
PB206	授業の活性化に関する研究 —幼児文化教材を用いての事例報告—	常葉大学	駒井 美智子
PB207	サウンドマップ作成による表現活動の展開と可能性（２）	育英短期大学	林智草

ポスター発表 C2. 保育実習・教育実習、実習指導など

15:15～17:15 アリーナ

座長: 岩田恵子・高橋実

発表ID

PC201	多様化する保育に即した実習日誌について (2)	鶴見大学短期大学部 鶴見大学短期大学部	○陸路和佳 松本和美
PC202	保育・教育実習記録の内容深化に関する研究 (3)	安田女子短期大学 安田女子短期大学	○橋本信子 中村涼
PC203	保育実習エピソード課題における気づきの構造 —M-GTA を用いた質的分析—	名古屋経済大学 名古屋経済大学 名古屋経済大学	○多川則子 関谷みのぶ 堀美鈴
PC204	養成から育成までの保育者効力感の変容 II	東京家政大学	齊藤加奈
PC205	ドキュメンテーション型実習日誌に関する研究	玉川大学 教育学部 玉川大学 教育学部 玉川大学 教育学部 玉川大学 教育学部	○岩田恵子 大豆生田啓友 鈴木美枝子 田澤里喜
PC206	保育実習 I (施設) への想い —実習指導における学生の気もちの動きを知る—	東大阪大学短期大学部	野崎之暢
PC207	保育士養成における「実習前評価システム」の開発 —社会福祉士養成の擬似 CBT を活用して—	帯広大谷短期大学 帯広大谷短期大学	○阿部好恵 滝澤真毅
PC208	実習訪問指導のあり方に関する一考察 —養成校教員の聞き取りから—	東大阪大学 大阪千代田短期大学	○今井 美樹 寄ゆかり
PC209	実習指導における擬似 CBT, OSCE の援用を核としたカリキュラムの構想	帯広大谷短期大学 帯広大谷短期大学	○滝澤真毅 阿部好恵
PC210	保育者への意欲が高まる実習の在り方に関する研究 ～保育所と学生双方の実習に対する意識の実態から～	鎌倉女子大学短期大学部 埼玉県立大学	○寶川雅子 越智幸一
PC211	保育実習における連携した指導について (1) —施設実習指導 I の概況—	沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学	○宮平隆央 糸洲理子 照屋建太
PC212	障害者支援施設における保育実習プログラムに関する研究 —アンケート調査からみる施設実習内容の実態—	白鷗大学 こども教育宝仙大学	○佐藤ちひろ 松倉佳子
PC213	保育実習における連携した指導について (2) —保育所実習指導 I の概況—	沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学 沖縄キリスト教短期大学	○糸洲理子 宮平隆央 照屋建太
PC214	当事者による実習の振り返りに関する考察 —スウェーデンでの実習体験に基づいて—	愛知淑徳大学教育学研究科子ども発達専修修士課程 愛知淑徳大学教育学研究科子ども発達専修修士課程	○岩田百合香 杉山和
PC215	実習に個別援助が必要な学生の対応について (2) —実習指導の視点から—	名古屋柳城短期大学 名古屋柳城短期大学	○野田さとみ 荻原はるみ
PC216	教育・保育実地研究での学び こどもとふれあう喜び・こどもの面白さ	聖ヶ丘教育福祉専門学校 聖ヶ丘教育福祉専門学校 聖ヶ丘教育福祉専門学校	○武藤篤訓 鈴木恵利子 柳田葉子
PC217	実習に個別援助が必要な学生の対応について —学生相談の視点から—	名古屋柳城短期大学 名古屋柳城短期大学	○荻原はるみ 野田さとみ
PC218	保育者を目指す学生の資質と力量に関する実習教育の検討④	美作大学短期大学部 美作大学短期大学部	○岡本美幸 花田優子
PC219	保育者養成校と現場が協働して行う実習を目指して (4)	相愛大学 相愛大学 相愛大学	○松島京 曲田映世 中西利恵
PC220	保育実習に関する一考察 ～学生の成長をはぐくむ教材の開発～	奈良保育学院	後藤紀子

ポスター発表 D2. 授業研究など

15:15～17:15 アリーナ

座長: 尾崎公彦・吉永早苗

発表ID

PD201	保育者養成における PBL —社会的養護Ⅱの学習を通じて—	秋草学園短期大学	志濃原 亜美
PD202	オノマトペからの発想を使用した抽象絵画表現の授業実践	川崎医療福祉大学	尾崎 公彦
PD203	保育者養成課程における表現活動に関する研究 (3)	相愛大学	曲田 映世
PD204	カリキュラム・マネジメント作成に向けた授業実践 (2) —協同学習を通じた主体的な学びの姿勢の育成—	聖和学園短期大学 聖和学園短期大学	○石森 真由子 岩淵 摂子
PD205	運動遊びに含まれる動作について —学生の実験からの年度比較—	川口短期大学	小山内 弘和
PD206	保育者の専門的視点取得を目指した授業プログラム開発 —自動視線計測装置を用いて—	白梅学園大学 白梅学園大学 白梅学園大学 白梅学園短期大学 白梅学園短期大学 白梅学園大学 白梅学園短期大学	○宮田 まり子 松田 佳尚 石島 このみ 佐藤 文 主藤 久枝 仲本 美央 源 証香
PD207	カリキュラム・マネジメント作成に向けた授業実践 (3) —保育構想に対する理解の変化—	聖和学園短期大学 聖和学園短期大学	○岩淵 摂子 石森 真由子
PD208	保育者養成におけるケースメソッド教育の効果 —「円環的な関係性理解」に注目して—	東京保育専門学校	高木 麻美子
PD209	保育者・教育者養成課程における初年次教育のあり方 (2) —初年次に必要な学びと PBL—	相愛大学	進藤 容子
PD210	子どもの表現活動につながる実践的授業の検討 —造形表現の視点から—	東京女子体育短期大学	渡邊 洋
PD211	科目「社会的養護・内容」と実習指導の連続性ある授業展開の検討 (3)	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学	○潮谷 恵美 鈴木 晴子
PD212	音楽表現のための読譜力育成の試み —3度音程に着目した学修の実践—	名古屋柳城短期大学	内山 尚美
PD213	教育実習Ⅱを通じて学生が学んだこと —指導計画立案と課題曲弾き歌いを中心とした教育実習指導実践—	名古屋柳城短期大学 名古屋柳城短期大学	○榎戸 裕子 内山 尚美
PD214	保育者養成校におけるゼミでのミュージカル鑑賞の取り組み	愛知学泉短期大学	本多 峰和
PD215	保育者養成校におけるアクティブラーニング2 —一般教養科目「現代社会論」での取り組みから—	千葉明德短期大学	池谷 潤子
PD216	あそびうたづくりの授業実践 —あそびうたに対する意識の変容プロセスに着目して—	常磐短期大学	鈴木 範之
PD217	保育者養成教育において多様な背景をもつ外国人について考える意味	千葉明德短期大学	鶴田 真二
PD218	保育学生の学習意欲に影響を与える要因について	秋草学園短期大学	大熊 美佳子
PD219	カリキュラム・マップを活用した学修成果可視化の試み	東京福祉大学短期大学部	松本 岳志
PD220	対話型アプローチを用いた保育実習振り返りの授業実践 —学生の学びと実践における課題—	東北福祉大学 聖霊女子短期大学	○利根川 智子 織田 栄子

日本保育者養成教育学会 第4回研究大会
広告掲載・出展のご芳名

株式会社北大路書房 様

中央法規出版株式会社 様

株式会社萌文書林 様

エクセル株式会社 様

日本被服株式会社 様

社会福祉法人つくし会 様

学会を開催するにあたり、多大なご支援をいただきました。
心より感謝申し上げます。

2020年3月

日本保育者養成教育学会
会長 小川 清美

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

新・保育ライブラリ 子ども家庭福祉

植木信一編著 A5・196頁・本体1800円＋税 好評の『児童家庭福祉[新版]』を刷新。2016年の児童福祉法改正や2018年の保育士養成課程の一部改定、さらには児童虐待の防止等に関する法律の改正等、子どもや家庭の福祉に関する動向を踏まえ、最新の情報を提供。保育者養成への活用はもとより保育者として活躍されている方にも。

夜間保育と子どもたち

—30年のあゆみ— 全国夜間保育園連盟監修 櫻井慶一編集 四六・284頁・本体2000円＋税 多様化する就労形態のもと、夜間に働く保護者の家庭支援のため、制度化され運営されてきた夜間保育。実践園の取り組みと調査研究を通して、夜間保育制度の役割、子どもの成長・発達への影響を明らかにする。

グローバル化とインクルーシブ教育

—通常学級に在籍する発達障害児にも対応した学校・学級経営— 安藤正紀編著 A5・160頁・本体2000円＋税 児童生徒の知覚レベルの実態把握とICT利用、21世紀型スキルを意識した職業教育、効果的な教育課程づくり等の視点から、豊富な実践事例とともに特別支援教育と通常の教育の一体化を推進するヒントを提供。

北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集

—五感を通して創造性を伸ばす— C. ブレイジ著 西浦和樹編訳 B5・176頁・本体2200円＋税 世界最高水準の競争力を誇るスウェーデンが重視するアウトドア教育。その実践マニュアルと事例を紹介。体験的にテクノロジーを学び続けることがモチベーションを高め、より深い学びに繋がる。課題解決能力・起業マインド・チームプレイの育成にも有効。

行列のできる児童相談所

—子ども虐待を人任せにしない社会と行動のために— 井上 景著 四六・304頁・本体2300円＋税 児童相談所は閉鎖的な機関であるため、一般市民から理解されにくい。現職の公務員が実情を語るのも相当ハードルが高い。児童相談所の「裏側」を、元児童福祉司の著者が体験を交えてつぶさに描き出し、子ども虐待という問題の本質に迫る。

子どもの育ちをとらえるラーニング・ストーリー

—いつでも、どこでも、だれでもできる観察・記録・評価— 矢野良子・三好伸子著 B5・160頁・本体2200円＋税 NZ発の子ども理解の方法であるラーニング・ストーリー。観察・記録・評価することで、保育者間あるいは保護者との間で成長の共有を可能にする。さまざまなパーソナリティのキャラクターと共に体験的に学ぶことができるワークブック。

「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援

—チェックリストを活用した保育の支援計画の立案— 本郷一夫編著 B5・96頁・本体1800円＋税 「気になる」子どもの行動の背景を理解するために開発された社会性発達チェックリスト。保育場面での幼児の行動に焦点を当てる。保育、発達支援の具体的な進め方を紹介。保育の支援計画の作成にも有用。保育者や巡回相談に携わる心理士の方に。

北欧スウェーデン発 森の教室

—生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育— A. シェバンスキー他編著 西浦和樹・足立智昭訳 A5・232頁・本体2500円＋税 大自然を教室に見立てた体験型の環境の中で、学習の基礎を育み、教科書中心の教育を補完。保育や教育の方法を実践的にガイド。健康促進やストレス軽減、集中力の向上等の効果もエビデンスをもって示す。

実習に役立つ表現遊び1・2

岡本弘子編著 各2300円＋税

心理学ベーシック 第4巻 なるほど!心理学観察法

三浦麻子監修／佐藤 寛編著 2200円＋税

発達心理学15講

高橋一公・中川佳子編著 2200円＋税

レッジョ・エミリア保育実践入門

J. ヘンドリック編／石垣恵美子・玉置哲洋監訳 2300円＋税

保育における感情労働

諏訪きぬ監修／戸田有一他編著 2200円＋税

シリーズ心理学と仕事 5 発達心理学

太田信夫監修／二宮克美・渡辺弥生編集 2000円＋税

ピアジェに学ぶ認知発達の科学

J. ピアジェ著／中垣 啓訳 2800円＋税

名前のない母子をみつめて

蓮田太二・柏木恭典著 1800円＋税

愛着と愛着障害

V. ブライア・D. グレイサー著／加藤和生監訳 2800円＋税

2019年度からの新しい保育士養成課程に対応したテキスト

新 基本保育シリーズ

全20巻



公益財団法人 児童育成協会=監修

B5判／2色刷 セット定価 本体 41,000円(税別)

新しい保育士養成課程の目標と内容をふまえ、保育士として必要な知識と技術を網羅しました。今後さまざまな場で活躍が期待される保育士の養成と質の向上に貢献するためのテキストシリーズ！

◆2019年施行の新しい保育士養成課程に準拠

◆授業で使いやすい15講の目次構成
(15巻は30講、20巻は20講)

◆各講は3Step方式でわかりやすく解説

巻構成	本体価格 (税別)	巻構成	本体価格 (税別)
① 保育原理	2,000円	⑪ 子どもの保健	2,000円
② 教育原理	2,000円	⑫ 子どもの食と栄養	2,000円
③ 子ども家庭福祉	2,000円	⑬ 教育・保育カリキュラム論	2,000円
④ 社会福祉	2,000円	⑭ 保育内容総論	2,000円
⑤ 子ども家庭支援論	2,000円	⑮ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ	2,600円
⑥ 社会的養護Ⅰ	2,000円	⑯ 子どもの健康と安全	2,000円
⑦ 保育者論	2,000円	⑰ 障害児保育	2,000円
⑧ 保育の心理学	2,000円	⑱ 社会的養護Ⅱ	2,000円
⑨ 子ども家庭支援の心理学	2,000円	⑲ 子育て支援	2,000円
⑩ 子どもの理解と援助	2,000円	⑳ 保育実習	2,400円



保育学用語辞典

●秋田喜代美=監修／東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター=編著

●定価 本体 4,000円(税別) ●2019年12月発行 A5判・450頁 ISBN978-4-8058-5936-0

保育・幼児教育の新時代、専門家、研究者、実践者の共通言語となるべく、保育学ならびに関連領域において学術的に明らかにされてきた知を整理して収載。執筆者133名の英知を結集した1032語。

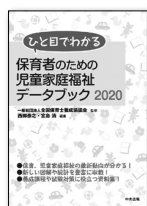
保育・幼児教育の新時代における共通言語

ひと目でわかる 保育者のための 児童家庭福祉 データブック

2020

一般社団法人全国保育士養成協議会=監修
西郷泰之、宮島 清=編集 ISBN978-4-8058-5964-3
本体価格1,200円(税別) B5判・92頁 2019年12月発行

保育者養成課程において学生が学ぶべき最新のデータを厳選して収載。保育・児童家庭福祉分野の学習に最適。



保育学生のための 基礎学力演習

教養と国語力を伸ばす 30 Lesson

馬見塚昭久、大浦賢治=編著
本体価格1,600円(税別) B5判・146頁
2018年12月発行 ISBN978-4-8058-5816-5

保育で使う言葉、日本語の文法や慣用的表現、小説や児童文学などの音読、作文・小論文、一般常識などを、30回分のLessonで学習する。



乳幼児の音楽表現

赤ちゃんから始まる音環境の創造
(保育士・幼稚園教諭養成課程)

日本赤ちゃん学会=監修
小西行郎、志村洋子、今川恭子、坂井康子=編著
定価 本体 1,800円(税別) B5判・164頁
2016年12月発行 ISBN978-4-8058-5448-8

0歳児から音楽を楽しむ優れた力があることを出発点に、音楽との望ましいコミュニケーションのあり方と環境への配慮について解説。



保育実習指導の ミニмумスタンダード

「協働」する保育士養成

一般社団法人全国保育士養成協議会=編集
本体価格 3,000円(税別) B5判・204頁
2018年7月発行 ISBN978-4-8058-5686-4

「保育実習」「保育実習指導」において、全国の保育士養成校の実習指導者が共有すべき標準的事項(ミニмумスタンダード)を解説。



保育園・認定こども園のための 保育実習指導 ガイドブック

増田まゆみ、小櫃智子=編著
本体価格 2,200円(税別) B5判・162頁
2018年8月発行 ISBN978-4-8058-5696-3

保育実習指導担当者のための手引書。受け入れ体制づくり、実習指導の基本とともに、実際の指導法を事例を通して具体的に解説する。



わかる!安心!自信がもてる! 保育・教育実習 完全サポートブック

寶川雅子=著
本体価格 1,800円(税別) B5変形判・172頁
2016年4月発行 ISBN978-4-8058-5326-9

学生が実習に臨むにあたり、実習前・実習中・実習後に気をつけるポイントや、事前に確認しておきたいマナーなどをわかりやすく解説。





子どもの経験の総合性、保育実践の総合性を読み解く

演習 保育内容総論

保育の総合性を読み解く

神田伸生・高橋貴志 編著
B5判 192頁 1,980円(税込)
ISBN 978-4-89347-350-9



保育内容を構造的・総合的にとらえた最新テキスト

改訂 保育内容総論

保育の構造と実践の探求

阿部和子・前原 寛・久富陽子・梅田優子 著
B5判 252頁 2,200円(税込)
ISBN 978-4-89347-341-7

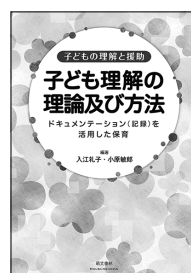


子どもの保育の基本理論について、新しい保育士養成課程「保育原理」に基づいて編集したテキスト

保育原理

子どもの保育の基本理論の理解

岡田耕一 編著
B5判 186頁 2,090円(税込)
ISBN 978-4-89347-330-1

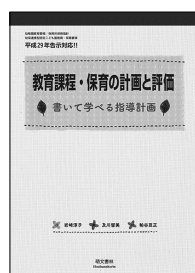


「ドキュメンテーション」を活用し、子どもの理解を深めよう！

子どもの理解と援助

子ども理解の理論及び方法

入江礼子・小原敏郎 編著
B5判 232頁(2色+4色) 2,200円(税込)
ISBN 978-4-89347-318-9



教育課程、全体的な計画の理解を深め、書きながら指導計画を習得！

教育課程・保育の計画と評価

書いて学べる指導計画

岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著
A4判 180頁 2,090円(税込)
ISBN 978-4-89347-314-1



「ルーブリック」を活用した学習支援を掲載。別冊『保育実技アイデアノート』付

教育・保育実習のデザイン

実感を伴う実習の学び

尾崎 司 編著
B5判 192頁+別冊 2,200円(税込)
ISBN 978-4-89347-345-5



登場人物の人生の物語を縦軸に、用語や制度、支援を図解で学ぶ！

図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉

直島正樹・河野清志 編著
A5判 212頁(2色) 2,310円(税込)
ISBN 978-4-89347-346-2



カラー誌面の豊富な実践解説による子どもの資質・能力を育む幼児造形の学び

幼児造形の基礎

乳幼児の造形表現と造形教材

樋口一成 編著
B5判 264頁(オールカラー) 2,640円(税込)
ISBN 978-4-89347-311-0



平成29年告示 教育要領、保育指針、教育・保育要領の改訂に対応した設問に改訂

保育者のための自己評価チェックリスト

保育者のための自己評価チェックリスト編纂委員会
代表 民秋 言
A4判 60頁 880円(税込)
978-4-89347-351-6



主任保育士のもとでミドルリーダーの役割を担う保育士を対象とした「マネジメント」研修に対応したテキスト

保育士等キャリアアップ研修シリーズ7 マネジメント

ポピンズ国際乳幼児教育研究所 監修
鈴木健史 編著
B5判 186頁 1,518円(税込)
ISBN 978-4-89347-337-0

低誘虫 LED 照明

品番：EFL-20LE/1YDT (ランプ) + 専用 灯具



瀬戸内で生まれた
みかんいろ
蜜柑色の光色

【灯火のような、温かみのあるあかり】

まるでガス灯や焚き火を眺めているかのような、温かく、リラックスできる光は、むしが誘われにくい光を研究する過程で生まれました。この光は人にリラクゼーションの効果を与えて、人を引きつけるものとして、大きな期待をもたれています。

みかんいろこう
蜜柑色光 + LED は

むし誘いにくい

エフエル 株式会社

〒720-2113 広島県福山市神辺町旭丘 47 番地 6
代 表 TEL.084-965-1331 FAX.084-965-0592
技術部 TEL.084-965-6045 FAX.084-965-6551



スクールユニフォームのパイオニア
I P P O N H I F U K U
 日本被服株式会社

社会福祉法人つくし会

～遊・学・心・食～

子どもに学び、子どもと学び、
 豊かな心と言葉を、はぐくみたい。
 人と人とのかけわりと慈しみ、
 年齢や世代を超えてつながりたい。



こどもえん つくし



みちのうえ こども園

〒720-0082

広島県福山市木之庄町五丁目 17 番 36 号

TEL : 084-921-7123 FAX : 084-921-7129

WEB : <http://tukusi-hoikuen.com/tukusi-kai/>

日本保育者養成教育学会 第4回研究大会

実行委員会

委員長：大庭 三枝（福山市立大学）

委員：小林 小夜子（福山市立大学）（会計担当）

委員：高橋 実（福山市立大学）

委員：劉 郷英（福山市立大学）

委員：古山 典子（福山市立大学）

委員：金山 和彦（倉敷市立短期大学）

委員：木戸 啓子（倉敷市立短期大学）

委員：三好 年江（新見公立大学）

委員：尾崎 公彦（川崎医療福祉大学）

委員：橋本 勇人（川崎医療福祉大学）

<協力委員>

中川智之、荻野真知子、岡正寛子、橋本彩子、松本優作、藤澤智子、笹川拓也、小川知晶（以上、川崎医療福祉大学）、田中卓也（静岡産業大学）

大会運営事務局

名鉄観光サービス株式会社 仙台支店（担当：志賀・植松）

〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央4丁目10-3 仙台キャピタルタワー6階
TEL:022-227-3611 FAX:022-261-4623 E-mail:hoikusyayousei04@mwt.co.jp

表紙・裏表紙デザイン：金山 和彦（倉敷市立短期大学）

福山市立ふたば保育所とフランスのルイ・カニ保育学校は2015年以来交流を続けています。表紙と裏表紙の絵は、互いに絵具・筆・紙を送り合い同じものを使って2018年度に描き交換したものです。「遠い国の友達に見てもらいたい」という日仏の子どもたちの気持ちがあふれ出ています。共通点・相違点を感知していただけると幸いです。（文責：大庭三枝）

【日本保育者養成教育学会について】



日本保育者養成教育学会は、一般社団法人全国保育士養成協議会における研究活動を前身とし、平成 28 年 3 月 22 日に発足しました。本学会の特徴は、保育者養成教育に関する研究活動を、研究者のみならず幼稚園、保育所、認定こども園その他さまざまな施設の保育者による協働によって進めていく点にあります。

昨年 3 月、東北福祉大学において第 3 回研究大会が開催され、第 1 回大会（白百合女子大学）、第 2 回大会（共立女子大学）にもまして、建設的で活発な議論が交わされました。本学会は、学会員数 1,100 人を超え、研究者と保育実践の場で活躍する保育者が、互いの特長を活かし、「未来を支える保育者」養成について考え続けます。

（学会 HP（URL：<http://www.h-yousei-edu.jp/>）もどうぞご覧ください。）

日本保育者養成教育学会第 4 回研究大会プログラム・抄録集

発行日：2020 年 2 月

発行者：日本保育者養成教育学会

印刷：名鉄観光サービス株式会社 仙台支店